

「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO2」 富士 24 時間はクラス 5 位入賞



Team Noah「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO2」は、5 月 30 日～6 月 1 日に富士スピードウェイ(静岡県)で開催された ENEOS スーパー耐久シリーズ 2025 第 3 戦「富士 24 時間レース」に参戦。クラス最後尾からのスタートから追い上げ表彰台獲得が期待されたが、接触からの修復に時間を要し順位を落とした。それでもクラス 5 位/総合 9 位まで追い上げ今季初の入賞を果たした。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表: 清瀧雄二)は、“九州に元気を！九州のモータースポーツにもっとワクワクを！”を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐に参戦を開始。2021～22 年はホンダ・シビック TCR で ST-TCR クラスチャンピオンを獲得した。2023 年は車両を GR Supra GT4 EVO にスイッチし、激戦区クラスであり国際的にも人気を集める GT4 車両による ST-Z クラスへクラス替えをした。昨季は GR Supra GT4 EVO2 を投入。今回は開幕戦以来となる熊本在住の塚田利郎が A ドライバーを担当し、B ドライバーに富田自然(あるが)、C ドライバーに大分出身の森田真心(こころ)とレギュラー勢。そして D ドライバーに SUPER GT/GT300 クラスのマッハ号をドライブする塩津佑介、E ドライバーには S 耐初参戦となる若手演歌歌手でもある中澤卓也を初めて迎えた。また、熊本トヨタの若手メカニックがサポートスタッフとして参加し今回のレースに挑んだ。

今年の 24 時間耐久レースに出走した車両は、全 10 クラス計 60 台。激戦の ST-Z クラスには、GR スーブラ、Z、ポルシェ・ケイマン、メルセデス AMG と国内外の GT4 マシン 4 車種計 9 台がエントリーした。A、B ドライバー 2 名のベストタイム合算で争う公式予選は気温 17℃の 30 日 12 時にスタート。塚田が 8 位、富田がコースレコード更新の 3 位でタイム合算の結果クラス 6 位/総合 14 位だったが、予選後の車検で最低重量違反により予選タイムが抹消され、グループ最後尾(総合 27 番グリッド)からのスタートとなった。

31 日の決勝前に雷雨に見舞われたことで、スタートは 1 時間遅れの 16 時となり、レースも 23 時間に短縮されることになった。セーフティカー(SC)先導によるスタートを担当したのは塩津で、SC 解除となると序盤のうちに ST-2 クラス車両を抜き取り ST-Z クラスのグループに追いついた。さらに少しずつ順位を上げ 40 周でピットインし富田に交代した。富田は上位に負けないラップタイムをマークしながらトップを追った。しかし夜の帷が落ちすっかり暗くなった 19 時前に他車と接触し右側のタイロッドを折りピットイン。この作業を義務付けられた”メンテナンスタイム”(10 分以上のピット作業)としたが修復には 30 分近くを要し、これでクラストップとの差は 10 周以上と大きく広がった。富田は 2 スティントを走り 124 周で塚田に交代。しかし恒例の花火の煙がコースに充満し SC 導入となり、さらに濃霧による視界不良で 3 回目の SC 導入となった。レースが 6 時間を経過した 22 時の時点でクラス 9 位/総合 28 位だった。

塚田は最大連続運転時間(3 時間)近くを走り、一旦ピットインして森田に交代したが、A ドライバーの義務周回時間(15%≒3 時間 36 分)を優先し再びコースへ。それをクリアすると再びナイトラン担当の森田に交代した。日付が変わった夜中の 1 時過ぎに 5 回目の SC 導入から 1 時 18 分にレースは中断し、2 時にリスタートとなった。森田は慎重に 2 スティントのドライブをこなし、1 時間以上続く 7 回目の SC 中に富田に交代。その直後の 4 時 45 分にレースは再び中断となった。順位はクラス 7 位/総合 17 位へ挽回していた。レース再開は 7 時 30 分で、すっかり明るくなったところで中澤がコースインして S 耐デビュー。中澤はそつなく 2 スティントを走り切り、アンカーの塩津へ交代した。塩津は最後の長い 97 周をミスなく粘り強く走りクラス 5 位/総合 9 位で今季初のポイントを獲得した。

チームは第 4 戦 SUGO をスキップ(第 5 戦オートポリスは ST-Z クラスの設定なし)、次は第 6 戦岡山(10 月 25～26 日)に臨む。

塚田利郎「今年初めてちゃんとチェッカーを受けることができました。アクシデントや小さなトラブルはありましたが、それを乗り越えられたのはチームワークのおかげだと思います。A ドライバーとしてはもっとペースを上げる必要があると感じたので、次は頑張ります」

富田自然「自分のミスで大きく順位を落とすことになってしまい、チームに大きな迷惑をかけてしまいました。その後は大きなトラブルもアクシデントもなかったので、あれがなければ表彰台に行けたのかなと思うと申し訳ないです。この苦い経験は今後のレースに必ず生かします」

森田真心「開幕戦から続く悪い流れを断ち切れなかったというのはあります。まだレースの女神には微笑んでもらえませんでした。ただ今回も速さは見せられましたし、次のレースまでしばらく間が空くのでしっかり準備を整えて次の岡山こそ勝ちに行きたいと思っています」

塩津佑介「3 年ぶりの S 耐で ST-Z のスーブラは 5 年ぶりでした。スタートはスーブラ勢のトップまで順位を上げられました。最後まで接触以外トラブルも出ずメカさんがクルマを良く仕上げてくれたと思います。雨の富士はいい経験になりましたし、また S 耐に出たいなと思います」

中澤卓也「純粋にメチャメチャ楽しかったです。いつもスプリントばかりなので、こういうチームプレーでバトンをつないで行くのは楽しかったしクルマも決まっていた。今回で S 耐の魅力にどっぷり浸かったかったので、今後のレースにつなげたいし S 耐にまた出たいです」